

研修医評価

別途定める書式により、研修医は各々のローテーション終了時に、到達目標の到達度を自己評価し、臨床研修委員会に提出する。また、指導医は別途定める書式により、研修医の評価を行い、評価結果を臨床研修委員会に提出する。研修医評価項目には、医学の基本知識、問題解決能力、コミュニケーション能力、サマリーをまとめる能力、症例呈示能力、リーダーシップの他、勤務態度や協調性、責任感・誠実性などの情意面での項目も含まれる。

臨床研修委員会（年4回開催）では、研修医個人の自己評価、指導医の研修医評価、研修医の指導医評価が集計・報告される。同委員会では、研修医個人個人の目標達成度と課題が討議され、その内容は、同委員会による研修医個人面接の場で本人にフィードバックされる。

プログラム終了の認定

規定プログラムを終了した者については、上記の研修医評価記録を踏まえ、当初の到達目標に至ったか否かを臨床研修委員会で討議し、最終的な修了認定を行う。修了証は院長名で発行・授与される。

土谷総合病院 研修医記録

研修医 氏名

職員番号

研修科	研修期間
1)	年 月 ~ 年 月
2)	年 月 ~ 年 月
3)	年 月 ~ 年 月
4)	年 月 ~ 年 月
5)	年 月 ~ 年 月
6)	年 月 ~ 年 月
7)	年 月 ~ 年 月
8)	年 月 ~ 年 月
9)	年 月 ~ 年 月
10)	年 月 ~ 年 月

研修医記録評価

- 1、研修記録（1週ごと）：毎週指導医に確認、署名を得る
- 2、臨床研修評価表
 - (ア)各研修科終了時に研修医自己評価の後、指導医評価を受ける
 - (イ)経験すべき症状、病態、疾患に関しては、必要な項目のレポートを作成する
 - (ウ)上記、評価は各研修科ごとに行なう、各科の特色により未経験疾患がある場合は他科研修にて補う
- 3、各科の研修が終了時、指導医にて達成項目を確認を受け、各科部長、研修委員会委員長へ提出、確認、署名を受ける
- 4、21ヵ月終了時に、臨床委員会ですべての研修記録・研修評価を確認、不足項目の研修指導を受ける
- 5、終了時、研修委員会委員長確認後、院長より終了証明が授与される
- 6、研修医記録は研修終了まで研修医各自が保管、終了後は委員会へ提出のこと

臨床研修評価表

(研修医自己評価と指導医評価を対照して評価する)

研修医氏名 [] 評価日 年 月 日

研修科 [], 指導医署名 [], 部長署名 []

研修医自己評価 : ×

指導医評価 : ○

I 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

II 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

B 経験すべき症状・病態・疾患

C 特定の医療現場の経験

臨床研修の基本理念

医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

I 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

(1) 患者－医師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。

優 、良 、可 、不可

2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。

優 、良 、可 、不可

3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

優 、良 、可 、不可

(2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、

1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。

優 、良 、可 、不可

- 2) 上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
優 、良 、可 、不可
- 3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。
優 、良 、可 、不可
- 4) 患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。
優 、良 、可 、不可
- 5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。
優 、良 、可 、不可

(3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる (EBM =Evidence Based Medicine の実践ができる)。
優 、良 、可 、不可
- 3) 自己評価および第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
優 、良 、可 、不可
- 4) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。
優 、良 、可 、不可
- 5) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。
優 、良 、可 、不可

(4) 安全管理

患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画するために、

- 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
優 、良 、可 、不可
- 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
優 、良 、可 、不可
- 3) 院内感染対策 (Standard Precautions を含む) を理解し、実施できる。
優 、良 、可 、不可

(5) 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
優 、良 、可 、不可
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。
優 、良 、可 、不可

(6) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- 1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
優 、良 、可 、不可
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
優 、良 、可 、不可
- 3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
優 、良 、可 、不可
- 4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。
優 、良 、可 、不可

II 【経験目標】

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

- 1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
優 、良 、可 、不可
- 2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
優 、良 、可 、不可
- 3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。
優 、良 、可 、不可

(2) 基本的な身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために、

- 1) 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。）ができ、記載できる。
優 、良 、可 、不可
- 2) 頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。）ができ、記載できる。
優 、良 、可 、不可
- 3) 胸部の診察（乳房の診察を含む。）ができ、記載できる。
優 、良 、可 、不可
- 4) 腹部の診察（直腸診を含む。）ができ、記載できる。
優 、良 、可 、不可
- 5) 泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む。）ができ、記載できる。
優 、良 、可 、不可
- 6) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。

- 7) 神経学的診察ができ、記載できる。 優 、良 、可 、不可
- 8) 小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む。）ができ、記載できる。 優 、良 、可 、不可
- 9) 精神面の診察ができ、記載できる。 優 、良 、可 、不可

(3) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、

(A)・・・自ら実施し、結果を解釈できる。

その他・・・検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

- 1) 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む。）【必修】 可 、不可
- 2) 便検査（潜血、虫卵）【必修】 可 、不可
- 3) 血算・白血球分画 【必修】 可 、不可
- 4) 血液型判定・交差適合試験 (A) 【必修】 可 、不可
- 5) 心電図（12誘導）(A) 【必修】 可 、不可
- 負荷心電図 可 、不可
- 6) 動脈血ガス分析(A) 【必修】 可 、不可
- 7) 血液生化学的検査【必修】 可 、不可
- ・ 簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 8) 血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。）【必修】 可 、不可
- 9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査【必修】 可 、不可
- ・ 検体の採取（痰、尿、血液など）
 - ・ 簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 10) 肺機能検査 【必修】 可 、不可
- ・ スパイロメトリー

- 11) 髄液検査 【必修】
可 、不可
- 12) 細胞診・病理組織検査
可 、不可
- 13) 内視鏡検査 【必修】
可 、不可
- 14) 超音波検査 (A) 【必修】
可 、不可
- 15) 単純X線検査 【必修】
可 、不可
- 16) 造影X線検査
可 、不可
- 17) X線CT検査 【必修】
可 、不可
- 18) MRI 検査
可 、不可
- 19) 核医学検査
可 、不可
- 20) 神経生理学的検査 (脳波・筋電図など)
可 、不可

必修項目 下線の検査について経験があること

* 「経験」とは受け持ち患者の検査として診療に活用すること

(A)の検査で自ら実施する部分については、受け持ち症例でなくてもよい

(4) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

- 1) 気道確保を実施できる。【必修】
可 、不可
- 2) 人工呼吸を実施できる。(バッグマスクによる徒手換気を含む。) 【必修】
可 、不可
- 3) 心マッサージを実施できる。 【必修】
可 、不可
- 4) 圧迫止血法を実施できる。 【必修】
可 、不可
- 5) 包帯法を実施できる。 【必修】
可 、不可
- 6) 注射法 (皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保【必修】、中心静脈確保)を実施できる。
可 、不可
- 7) 採血法 (静脈血、動脈血)を実施できる。【必修】

- 8) 穿刺法（腰椎）を実施できる。【必修】 可 、不可
- 9) 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。 可 、不可
- 10) 導尿法を実施できる。【必修】 可 、不可
- 11) ドレーン・チューブ類の管理ができる。【必修】 可 、不可
- 12) 胃管の挿入と管理ができる。 【必修】 可 、不可
- 13) 局所麻酔法を実施できる。【必修】 可 、不可
- 14) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。【必修】 可 、不可
- 15) 簡単な切開・排膿を実施できる。【必修】 可 、不可
- 16) 皮膚縫合法を実施できる。【必修】 可 、不可
- 17) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。【必修】 可 、不可
- 18) 気管挿管を実施できる。 【必修】 可 、不可
- 19) 除細動を実施できる。【必修】 可 、不可

必修項目 下線の手技を自ら行った経験があること

(5) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、

- 1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。）ができる。 可 、不可
- 2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。）ができる。 可 、不可
- 3) 基本的な輸液ができる。 可 、不可
- 4) 輸血（成分輸血を含む。）による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。 可 、不可

(6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

- 1) 診療録（退院時サマリーを含む。）を POS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。

優 、良 、可 、不可
- 2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。

優 、良 、可 、不可
- 3) 診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。

優 、良 、可 、不可
- 4) CPC（臨床病理検討会）レポートを作成し、症例呈示できる。

優 、良 、可 、不可
- 5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

優 、良 、可 、不可

(7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

- 1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む。）を作成できる。

優 、良 、可 、不可
- 2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。

優 、良 、可 、不可
- 3) 入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む。）。

優 、良 、可 、不可
- 4) QOL（Quality of Life）を考慮にいれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。

優 、良 、可 、不可

必修項目

- 1) 診療録の作成
- 2) 処方箋・指示書の作成
- 3) 診断書の作成
- 4) 死亡診断書の作成
- 5) CPC レポート（※）の作成、症例呈示
- 6) 紹介状、返信の作成

上記1)～6)を自ら行った経験があること

（※ CPC レポートとは、剖検報告のこと。）

B 経験すべき症状・病態・疾患

研修の最大の目的は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある。

1 頻度の高い症状

必修項目 下線の症状を経験し、レポートを提出する。

* 「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと

- 1) 全身倦怠感：経験あり
- 2) 不眠：経験あり 、レポート番号 []
- 3) 食欲不振：経験あり
- 4) 体重減少、体重増加：経験あり
- 5) 浮腫：経験あり 、レポート番号 []
- 6) リンパ節腫脹：経験あり 、レポート番号 []
- 7) 発疹：経験あり 、レポート番号 []
- 8) 黄疸：経験あり
- 9) 発熱：経験あり 、レポート番号 []
- 10) 頭痛：経験あり 、レポート番号 []
- 11) めまい：経験あり 、レポート番号 []
- 12) 失神：経験あり
- 13) けいれん発作：経験あり
- 14) 視力障害、視野狭窄：経験あり 、レポート番号 []
- 15) 結膜の充血：経験あり 、レポート番号 []
- 16) 聴覚障害：経験あり
- 17) 鼻出血：経験あり
- 18) 嘔声：経験あり
- 19) 胸痛：経験あり
- 20) 動悸：経験あり
- 21) 呼吸困難：経験あり 、レポート番号 []
- 22) 咳・痰：経験あり 、レポート番号 []
- 23) 嘔気・嘔吐：経験あり 、レポート番号 []
- 24) 胸やけ：経験あり
- 25) 嚥下困難：経験あり
- 26) 腹痛：経験あり 、レポート番号 []
- 27) 便通異常(下痢、便秘)：経験あり 、レポート番号 []
- 28) 腰痛：経験あり 、レポート番号 []
- 29) 関節痛：経験あり
- 30) 歩行障害：経験あり
- 31) 四肢のしびれ：経験あり 、レポート番号 []
- 32) 血尿：経験あり 、レポート番号 []
- 33) 排尿障害 (尿失禁・排尿困難)：経験あり 、レポート番号 []
- 34) 尿量異常：経験あり
- 35) 不安・抑うつ：経験あり

2 緊急を要する症状・病態

必修項目 下線の病態を経験すること
*「経験」とは、初期治療に参加すること

- 1) 心肺停止：経験あり
- 2) ショック：経験あり
- 3) 意識障害：経験あり
- 4) 脳血管障害：経験あり
- 5) 急性呼吸不全：経験あり
- 6) 急性心不全：経験あり
- 7) 急性冠症候群：経験あり
- 8) 急性腹症：経験あり
- 9) 急性消化管出血：経験あり
- 10) 急性腎不全：経験あり
- 11) 流・早産および満期産：経験あり
- 12) 急性感染症：経験あり
- 13) 外傷：経験あり
- 14) 急性中毒：経験あり
- 15) 誤飲、誤嚥：経験あり
- 16) 熱傷：経験あり
- 17) 精神科領域の救急：経験あり

3 経験が求められる疾患・病態

必修項目

- 1.A疾患については入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること
- 2.B疾患については、外来診療又は受け持ち入院患者（合併症含む。）で自ら経験すること
- 3.外科症例（手術を含む。）を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について症例レポートを提出すること

※全疾患（88項目）のうち70%以上を経験することが望ましい

（1）血液・造血器・リンパ網内系疾患

- (1) 貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）：経験あり
- (2) 白血病：経験あり
- (3) 悪性リンパ腫：経験あり
- (4) 出血傾向・紫斑病（播種性血管内凝固症候群：DIC）：経験あり

（2）神経系疾患

- (1) 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）
：経験あり 、レポート番号 []

- (2) 認知症疾患：経験あり
- (3) 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）：経験あり
- (4) 変性疾患（パーキンソン病）：経験あり
- (5) 脳炎・髄膜炎：経験あり

(3) 皮膚系疾患

- (1) 湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）：経験あり
- (2) 蕁麻疹：経験あり
- (3) 薬疹：経験あり
- (4) 皮膚感染症：経験あり

(4) 運動器（筋骨格）系疾患

- (1) 骨折：経験あり
- (2) 関節・靭帯の損傷及び障害：経験あり
- (3) 骨粗鬆症：経験あり
- (4) 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）：経験あり

(5) 循環器系疾患

- (1) 心不全：経験あり 、レポート番号 []
- (2) 狭心症、心筋梗塞：経験あり
- (3) 心筋症：経験あり
- (4) 不整脈（主要な頻脈性、徐脈性不整脈）：経験あり
- (5) 弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）：経験あり
- (6) 動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）：経験あり
- (7) 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
- (8) 高血圧症（本態性、二次性高血圧症）：経験あり 、レポート番号 []

(6) 呼吸器系疾患

- (1) 呼吸不全：経験あり
- (2) 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）：経験あり 、レポート番号 []
- (3) 閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症）：経験あり
- (4) 肺循環障害（肺塞栓・肺梗塞）：経験あり
- (5) 異常呼吸（過換気症候群）：経験あり
- (6) 胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）：経験あり
- (7) 肺癌：経験あり

(7) 消化器系疾患

- (1) 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）
：経験あり 、レポート番号 []
- (2) 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）：経験あり

- (3) 胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）：経験あり
- (4) 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）：経験あり
- (5) 膵臓疾患（急性・慢性膵炎）：経験あり
- (6) 横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）：経験あり
- (8) 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む。）疾患
- (1) 腎不全（急性・慢性腎不全、透析）：経験あり 、レポート番号 []
- (2) 原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）：経験あり
- (3) 全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）：経験あり
- (4) 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）：経験あり
- (9) 妊娠分娩と生殖器疾患
- (1) 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥）
：経験あり
- (2) 女性生殖器及びその関連疾患（月経異常（無月経を含む。）、不正性器出血、更年期障害、外陰・陰・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍）：経験あり
- (3) 男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）：経験あり
- (10) 内分泌・栄養・代謝系疾患
- (1) 視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）：経験あり
- (2) 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）：経験あり
- (3) 副腎不全：経験あり
- (4) 糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）：経験あり 、レポート番号 []
- (5) 高脂血症：経験あり
- (6) 蛋白および核酸代謝異常（高尿酸血症）：経験あり
- (11) 眼・視覚系疾患
- (1) 屈折異常（近視、遠視、乱視）：経験あり
- (2) 角結膜炎：経験あり
- (3) 白内障：経験あり
- (4) 緑内障：経験あり
- (5) 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化：経験あり
- (12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患
- (1) 中耳炎：経験あり
- (2) 急性・慢性副鼻腔炎：経験あり
- (3) アレルギー性鼻炎：経験あり
- (4) 扁桃の急性・慢性炎症性疾患：経験あり
- (5) 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物：経験あり

(13) 精神・神経系疾患

- (1) 症状精神病 : 経験あり
- (2) 認知症 (血管性認知症を含む) : 経験あり 、レポート番号 []
- (3) アルコール依存症 : 経験あり
- (4) 気分障害 (うつ病、躁うつ病を含む。) : 経験あり 、レポート番号 []
- (5) 統合失調症 (精神分裂病) : 経験あり 、レポート番号 []
- (6) 不安障害 (パニック症候群) : 経験あり
- (7) 身体表現性障害、ストレス関連障害 : 経験あり

(14) 感染症

- (1) ウイルス感染症 (インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)
: 経験あり
- (2) 細菌感染症 (ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア) : 経験あり
- (3) 結核 : 経験あり
- (4) 真菌感染症 (カンジダ症) : 経験あり
- (5) 性感染症 : 経験あり
- (6) 寄生虫疾患 : 経験あり

(15) 免疫・アレルギー疾患

- (1) 全身性エリテマトーデスとその合併症
- (2) 慢性関節リウマチ : 経験あり
- (3) アレルギー疾患 : 経験あり

(16) 物理・化学的因子による疾患

- (1) 中毒 (アルコール、薬物) : 経験あり
- (2) アナフィラキシー : 経験あり
- (3) 環境要因による疾患 (熱中症、寒冷による障害) : 経験あり
- (4) 熱傷 : 経験あり

(17) 小児疾患

- (1) 小児けいれん性疾患 : 経験あり
- (2) 小児ウイルス感染症 (麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)
: 経験あり
- (3) 小児細菌感染症 : 経験あり
- (4) 小児喘息 : 経験あり
- (5) 先天性心疾患 : 経験あり

(18) 加齢と老化

- (1) 高齢者の栄養摂取障害 : 経験あり
- (2) 老年症候群 (誤嚥、転倒、失禁、褥瘡) : 経験あり

C 特定の医療現場の経験

必修項目にある現場の経験とは、各現場における到達目標の項目のうち一つ以上経験すること。

(1) 救急医療

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために、

- 1) バイタルサインの把握ができる。
: 優 、良 、可 、不可
- 2) 重症度および緊急度の把握ができる。
優 、良 、可 、不可
- 3) ショックの診断と治療ができる。
優 、良 、可 、不可
- 4) 二次救命処置 (ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む。)ができ、一次救命処置 (BLS = Basic Life Support) を指導できる。
優 、良 、可 、不可
※ ACLS は、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLS には、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等機器を使用しない処置が含まれる。
- 5) 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。
優 、良 、可 、不可
- 6) 専門医への適切なコンサルテーションができる。
優 、良 、可 、不可
- 7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。
優 、良 、可 、不可

必修項目 救急医療の現場を経験すること

(2) 予防医療

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、

- 1) 食事・運動・禁煙指導とストレスマネジメントができる。
優 、良 、可 、不可
- 2) 性感染症予防、家族計画を指導できる。
優 、良 、可 、不可
- 3) 地域・産業・学校保健事業に参画できる。
優 、良 、可 、不可
- 4) 予防接種を実施できる。
優 、良 、可 、不可

必修項目 予防医療の現場を経験すること

(3) 地域医療

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む。）について理解し、実践する。

優 、良 、可 、不可

- 2) 診療所の役割（病診連携への理解を含む。）について理解し、実践する。

優 、良 、可 、不可

- 3) へき地・離島医療について理解し、実践する。

優 、良 、可 、不可

必修項目

へき地・離島診療所、中小病院・診療所等の地域医療の現場を経験すること

(4) 周産・小児・成育医療

周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。

優 、良 、可 、不可

- 2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。

優 、良 、可 、不可

- 3) 虐待について説明できる。

優 、良 、可 、不可

- 4) 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。

優 、良 、可 、不可

- 5) 母子健康手帳を理解し活用できる。

優 、良 、可 、不可

必修項目 周産・小児・成育医療の現場を経験すること

(5) 精神保健・医療

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 精神症状の捉え方の基本を身につける。

優 、良 、可 、不可

- 2) 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。

優 、良 、可 、不可

- 3) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

優 、良 、可 、不可

必修項目 精神保健福祉センター、精神科病院等の精神保健・医療の現場を経験すること

(6) 緩和ケア、終末期医療

緩和ケアや終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

1) 心理社会的側面への配慮ができる。

優 、良 、可 、不可

2) 治療の初期段階から基本的な緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む。）ができる。

優 、良 、可 、不可

3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。

優 、良 、可 、不可

4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。

優 、良 、可 、不可

必修項目 臨終の立ち会いを経験すること

(3) 地域保健

地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、各種検診・健診の実施施設等の地域保健の現場において、

1) 保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む。）について理解し、実践する。

優 、良 、可 、不可

2) 社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。

優 、良 、可 、不可

臨床研修レポート（レポート番号 ）

〈臨床経験，手術，解剖，その他〉

研修医：

指導医：

カルテ番号； 年齢； 性：

研修目標に該当する疾患名：

主病名：

合併症病名 1： 2： 3：

症例経過：

考察：

指導医評価：

※ 研修評価表、B経験すべき症状・病態・疾患の項のレポートに使用。

※ 不足分はコピーにて使用。